

上宮御製疏研究號

佛敎研究二卷二號 定價八拾錢

◇三經義疏研究序說(佐々木月樵) ◇勝曼經義疏を讀みて(金子大榮) ◇維摩經義疏の研究(中島覺了) ◇法華義疏を讀みて(稻葉圓成) ◇上宮御製疏と淨名玄論略述(橋川正) ◇上宮御製疏の書史學的概説(日下無倫) ◇阿波國本願寺に藏する太子傳曆(橋川正)等。

親鸞聖人著述研究號

佛敎研究四卷三四合併號 定價壹圓五拾錢(殘本僅少)

口繪—親鸞聖人筆唯信抄斷簡 ◇親鸞聖人著述總論(橋川正) ◇敎行信證著作の意志及びその年代に就て(中澤見明) ◇敎行信證古寫本の種類及びその最古の註疏(日下無倫) ◇本願三心の考察(金子大榮) ◇淨土文類聚鈔に就て(大須賀秀道) ◇淨土三經往生文類と往還廻向文類(加藤智學) ◇三經往生文類に就て(鷲尾敎導) ◇尊號眞像銘文と光明本尊(橋川正) ◇一念多念文意の研究(山上正尊) ◇入出二門偈頌の研究(廣瀬南雄) ◇親鸞聖人御眞蹟唯信抄について(日下無倫) ◇親鸞聖人の國語について(井上右近)等。

大谷派學事史の研究

大谷學報九卷三號(品切)

中世の研究

大谷學報十卷四號 定價壹圓

◇心敬僧都の藝術境(龍勢朝二) ◇怨親平等の思想(橋川正) ◇鎮西島津庄、その成立・増大・住人・並に傳領(德重淺吉) ◇元の征東行省に就きて(鴛淵一) ◇カール大帝時代の文化とその特徴(菅原憲) ◇原始眞宗に於ける苑木門徒の研究(日下無倫) ◇末法思想を動因とせる鎌倉時代の展開(藤島達朗) ◇東坡居士のこゝも(本田成之)等。

西藏佛敎研究號

大谷學報十一卷三號 定價壹圓廿錢 殘本僅少

口繪—殿版蒙文大藏經漢字目錄 ◇西藏佛敎の由來と價值(松本文三郎) ◇喇嘛敎々理概説(寺本婉雅) ◇殿版蒙文大藏經考(石濱純太郎) ◇藏傳、攝大乘論より見たる二三の問題(西尾京雄) ◇敦煌本瑜珈論分門記について(諏訪義讓) ◇西藏譯大寶積經の研究—大寶積經成立考の一節—櫻部文鏡 ◇安慧造中邊分別論註釋梵文寫本の數葉について(山口益)等。

普通號も併せての御註文は一ケ年分金參圓。
但し豫め紹介せられたし。

「佛敎研究」(創刊號から八卷四號まで)の總目錄は同誌第八卷四號にあり。

◆ 誌雜究研の化文教佛 ◆

目 要 號 三 第

目 要 號 二 第

顯眞學報

一年六回隔月發行
 菊版每號百四十頁
 一冊五拾錢(送錢料)
 一年分參圓(送錢料)

學苑雜誌抄	分別苦取捨苦	近代獨逸思想と佛教(二)	聖光上人の性格と信條(上)	信の心理學的研究	原始經典成立の主觀的過程	金剛仙論に就いて	第二十願の研究(上)	十住毘婆沙論と教行信證	親鸞聖人の第十七願觀	親鸞聖人の七祖觀	菩提流支の思想體系	信の心理學的研究	日溪法霖の宗學	文化年間に於ける助正論爭	唯僧鈔託宣記に就いて	二雙四重の教判に於ける傳統と已證	親鸞聖人の御往生地考	梅原眞隆	潮留眞澄	玉置眞晃	岡道固	大原性實	山名演暢	生桑寛明	梅原眞隆	嵩尾教順	梅原眞隆	藤原眞隆	玉置眞晃	辻本鐵夫	岡道固	高千穂徹乘	蘭田香勳	遠藤雄	學苑同人
-------	--------	--------------	---------------	----------	--------------	----------	------------	-------------	------------	----------	-----------	----------	---------	--------------	------------	------------------	------------	------	------	------	-----	------	------	------	------	------	------	------	------	------	-----	-------	------	-----	------

部 版 出 苑 學 眞 顯 所 行 發

番一三五七八阪大替振

一六町倉板茂賀市都京

金子大榮先生著

大無量壽經の概論

四六版美裝全一冊

定價 壹圓參拾錢

送料 六錢

新著出づ

曩に「教行信證の概要」を世に示した著者は、かの書と同じ機縁により今や淨土教——眞宗の根本教典たる「大無量壽經の概要」を説いてこの一書を成した。著者、故あつて緇衣を脱し、教壇を退いたが、爾來愈々深く淨土眞實教の體驗に沈潜し、聖人親鸞の宗教を解行して道友に語る。この唯一無二の生命的精進の外に著者は全く他念ないのであらう。筆硯を新にして公にせられた「大無量壽經の概要」鮮かに此經の宗を説き體を示し、而も又始終一貫して問題の要を盡して餘蘊ない。發行者は初版に於て教界未曾有の部數を印刷用意せるも旬日ならずして賣切れん、再版は更に日時を借らざるべからず、夫れ速かに御註文あれ。

同先生著

第四版

佛教の本質

四六版 定價 壹圓八拾錢
全一冊 送料 拾錢

同

第六版

淨土の觀念

四六版 定價 壹圓參拾錢
全一冊 送料 六錢

文榮堂

京振電
都大替
市大阪
寺五
町七
通七
上〇〇
ル七二

發行所

盤針羅の究研教佛 晶結の心苦年十二

著名大二の授教善智沼赤

印度佛教固有名詞辭典

四六倍版 全一冊 背皮金文字天金
定價 貳拾五圓(送料六拾參錢)
完念 昭和六年五月末日限り
紀價特 金貳拾壹圓也(送料六拾參錢)

一、本書は巴利三藏を基本とし、梵語、西藏語、漢譯の經典中、印度佛教に關する限り一切の固有名詞、即ち佛菩薩、比丘、比丘尼、優婆塞、優婆夷、王、王妃、婆羅門、外道、部派、町村、山河、寺塔、馬、象等を檢出したもので、收容語彙四千五百を超してゐる。
一、語彙の掲出は巴利語を主とし、巴利聖典中にはなき梵語聖典、並に漢譯經典中にもある語彙は梵語を以つて見出し、アルハベツト順に配列し、各語に原音、音寫、音略、譯語等は勿論、其に關係の古來の註釋書から最近の我國及び泰西の研究を涉獵し、その一々の出典頁數を明記してある。

一、卷末に「音引漢譯索引」及び「畫引冠子檢音」が添へてあるから、漢譯からも自由に所要の語を檢出する事が出来る。例へば「秋露子」なる語を卷末索引に依つて緝く、其は舍利弗のこゝで、舍利子舍利弗多、舍利弗羅、舍利弗多羅、舍利富多羅、舍利補怛羅、驚鷲子、優婆提舍等とも云はれてゐる事、其等は如何なる經論の何處に出て居るか、舍利弗の傳記及びこれに關する研究文獻は如何等一目的の下に知る事が出来る。

漢巴四部四阿含互照錄

略稱「赤沼目錄」

菊判。洋布裝。全一冊。
四四〇頁。定價七圓五拾錢。
四月五月中特價六圓參拾錢。

内容は四部よりなり、(一)先づ漢譯四阿含(約二千一百經)の經目番號を逐一に掲出して、其丁數を縮刷藏經並に大正藏經によつて明示し、これに巴利本相當經並に漢譯異傳他部編入の異本、梵本、西藏譯其他の存否を精細に列示し、(二)次に巴利傳長中相應増支の四部(約一萬八千經)の經目番號を列示し、これに漢譯四阿含其他異傳、梵本等の相當經目を配次し、巴利諸傳相互間の類經を對覽し、其出丁を明示してある。(三)次に附録として(イ)別譯雜阿含、(ロ)單本雜阿含、(ハ)七處三觀經、(ニ)阿含部現存梵莢、(ホ)西藏譯阿含經典について、詳密に對照し、(四)最後に補遺として、漢巴相互中の類經や偈頌の同文出據について細大漏らさず記入提示してある。

寺本婉雅先生著

改訂

增補

西藏語文法

菊判クローヌ

全一冊

定價金四圓

送料金貳拾七錢

世界の秘密王國たる西藏語學は梵・巴兩語と共に我が佛教原典の基礎的語學として殊に大乘佛教の比較研究の對象として東洋語學・史學の領域を超えて原始佛教學の上に特異の位置を有せり、而して本語實習文典として初學の學習に指針を與へたるものは實に本書を描きて他に之を見ず、先生曩きに本文法書を公刊し帝大及大谷大學等の講座に於て實地教授を重ねられたる後更らに其完璧を期する爲め全部に亙りて改訂補足し西藏所傳の原典を鮮麗なる寫眞凸版として西藏活字に代へ、新たに巴語藏譯の「阿含轉法輪經」・梵語藏譯「阿含轉法輪經」・西藏譯「異部宗輪論」等の貴重史料を加へ殆んど舊觀を改め茲に其發兌を見たり。學界至重の書一般佛教史學研究の士に薦む。

社會式株刷印版出外内

南條七院洞西市都京
番一三九三阪大替攝

所行發

大谷大學
圖書館藏

西藏大藏經甘珠爾勘同目錄

四 六 倍 版
假綴 全三卷

定 價
各卷 國內金四圓 送料十八錢
外國十五圓(七圓五拾錢) 送料共

一、昨年七月第一卷を刊行して、學界の異常なる注目を惹き稱讃を博したる本書は、こゝにその第二卷を公刊した。

一、本卷は般若、寶積、華嚴、及び諸經部の大半まで、殆んど主要大乘經典を盡してゐる。

(第一卷は Regyud 即ち Tantra 部——主として密教經典、陀羅尼、儀軌等)

一、本目錄は寺本教授將來の大谷大學圖書館所藏の康熙殿版赤字甘珠爾の目錄で、各經典の梵名、西藏名、譯名、翻譯者名を挙げ、對同する梵、巴の原本、漢譯經典を詳細に探索し、その分卷、分品、品名に至るまで對照記入し、更に西藏經版の異本たるナルタン、デリゲ兩版の所在葉數行數をも一々引用參照してある。

一、今や佛教學界は翕然として大乘佛教の研究に向つてゐるが、その資料は、先づ内容豊富にして、且つ梵語に親しき西藏經典に仰がざるを得ない。本目錄が佛教學者の坐右に必要缺く可らざるものである事は多言を要せずして明かであらう。

一、第三卷は今年末に刊行の豫定。

發 行 所 京 都 市 烏 丸 頭 大 谷 大 學 圖 書 館

振替大阪五七六七番(大谷大學出版部)